

編集方針と特色 ともに考え語り合う副読本

1 学習指導要領の改訂と道徳教育

平成20年3月に告示された学習指導要領は、前回(平成10年)の「生きる力」をはぐくむという理念を継承しながら、その基盤となる道徳教育の重要性をより明確に強調したものになっている。

「第1章 総則」では、道徳の時間の役割を道徳教育の「要」と明記し、「生徒の発達段階を考慮して」行わなければならないとした。道徳教育の目標についても、改正教育基本法における教育の目標などを踏まえ、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し」、「公共の精神を尊び」、「他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し」が新たに加わった。

「第3章 道徳」では、目標に「道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め」という文言が加わり、内容については、従来、2の視点の「人間愛、思いやりの心」に含まれていた「感謝」の文言を取り出し、新たな内容項目として独立させている。また、指導内容の重点化に当たっては、新たに「自他の生命を尊重」することや、「法やきまりの意義の理解を深め、主体的に社会の形成に参画」することを配慮すべきこととして示している。そして、「悩みや葛藤等の思春期の心の揺れ、人間関係の理解」などの課題を積極的に取り上げること、「道徳の内容との関連を踏まえて、情報モラルに関する指導に留意すること」、学校と家庭、地域社会が連携を密にし、一体的な道徳教育が行われるよう、「道徳の時間の授業を公開」することも明記された。

2 編集の方針

「中学道徳 きみが いちばん ひかるとき」の編集委員会は、この学習指導要領の改訂を受けて、次の編集方針を立てた。

- ・よりよく生きようとする心と実践力を育てる。
- ・家庭での道徳教育との橋渡しをする。
- ・多様な学習指導を可能とする。

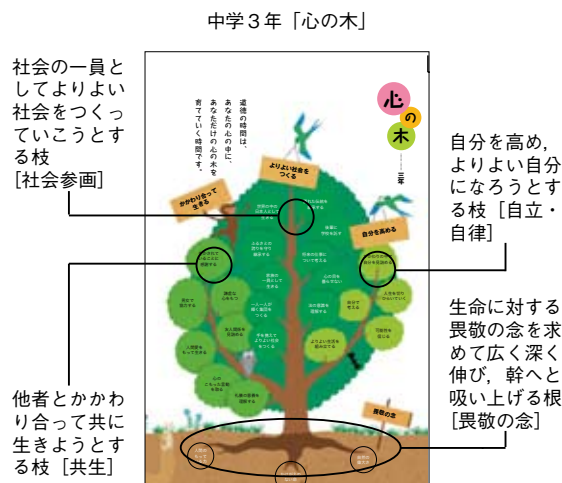
「中学道徳 きみが いちばん ひかるとき」は、平成元年の創刊以来、一貫して「生徒と教師がともに考え語り合う道徳」に寄与できる副読本を目指してきた。そして今回は、そこに家庭や地域をも巻き込み、生徒をはぐくむすべての人々が「ともに考え語り合う道徳」に寄与したいと願うものである。

3 特色

○心の成長の実感をもたらす >>> 心の木

「道徳の時間は読み物を読むけれど、国語の時間とどこが違うのかな。」こうした問いをよく耳にする。「道徳の時間は心を育てる時間」、このことを生徒が自覚し、自分の心の成長を実感してほしいという願いを「心の木」に託し、目次に掲げた。

「心の木」は、大地に深く根を下ろし、「生命に対する畏敬の念」を吸い上げ、人間尊重の幹を伸ばし、「自分を高め、よりよい自分になろうとする」枝、「他者とかかわり共に生きようとする」枝、「よりよい社会をつくろうとする」枝を大きく張り出す。枝に茂る葉は、副読本を通して1年間にはぐくむ道徳性である。大地は、生徒を見守りはぐくむ家庭、学校、地域社会といえるであろう。この「心の木」は、小学校用「道徳 きみが いちばん ひかるとき」の各学年にも掲げた。9年間をかけて徐々に大きくなり、豊かな緑をたたえる木に成長することを、児童・生徒が自ら確認できるように工夫した。



また、「心の木」の葉の文言を、各資料のタイトルの横にも記した。道徳の時間の課題を自覚し、自らの心を見詰め、教師やクラスの仲間と「ともに考え語り」合ってほしいと願ってのことである。そのため、文言には価値の押し付けにならないよう細心の注意を払った。

なお、この「心の木」には、道徳の時間はどんな時間なのかを保護者にも伝える役目を担っている。子どもの心がどのように育っているのかを把握し、「ともに語り合う」手立てとして、家庭でも活用していただきたい。

○現実の課題に向き合い、乗り越える力を育てる >>> 四つのコーナー

「コーナー」とは、生徒が直面している課題や、よりよい社会をつくるためにともに考えなければならない課題を取り上げ、道徳の時間と学級活動の関連を図り、具体的な実践へと発展させようとする試みである。コーナーは、学級活動の時間に活用できる「扉」と道徳の時間に用いる資料から構成されている。



各学年ともに、次の四つのコーナーを設置した。

- ・「環境」コーナー
環境問題に取り組み、生活を見直す。
- ・「いじめ問題を考える」コーナー
いじめをしない、させない、見過ごさない社会をつくる。
- ・「情報社会に生きる」コーナー
情報モラルを考える。
- ・「共生」コーナー
ボランティア、男女共同参画、高齢社会を題材に、共生社会を考える。

各コーナーの課題は、学級活動だけでなく、「総合的な学習の時間」や他教科での学習活動と連携を図ることでよりいっそう実践力を高められるよう設定した。また、家庭や地域での活動へと発展させる可能性ももたせた。各学校の指導計画に合わせて自由に活用していただきたい。

なお、「いじめを考える」コーナーの後ろに、アサーションの考えに基づいた自己信頼を回復するためのトレーニング「自分を好きになる」を置いた。自己信頼は、よりよい対人関係の基盤となる。このページを、健全な自尊感情を育て、よりよい人間関係を築いていくための手立てとしてほしい。

○心に響き、感動を呼ぶ資料群

「ともに考え語り合う」ためにいちばん重要な役割を担っているのは資料である。生徒の心に響き、教師の心にも保護者の心にも響く資料を厳選した。感動は、人の心を動かす。その心の動きが「いかに生きるか」という深い思考を生む起爆力となる。押し付けではない自発的な思考は、必ずや行動へと転化する。感動にはそうした力があるのである。

収録資料は、小説、詩、随筆、ノンフィクション、論説文、伝記、生徒作文、活動型資料など、さまざまな分野から感動性の高いものを選んだ。また、各学年に朗読劇の手法を取り入れたシナリオも収録している。朗読劇は、読解の過程を短縮するとともに、葛藤場面を感覚的につかませ、思考を深め効果のある手法である。

なお、今回の改訂では、新しく「読書案内 広げよう、心の翼」を特設した。より多くのすばらしい作品に出会ってほしいと願ってのことである。読書活動などに活用していただきたい。